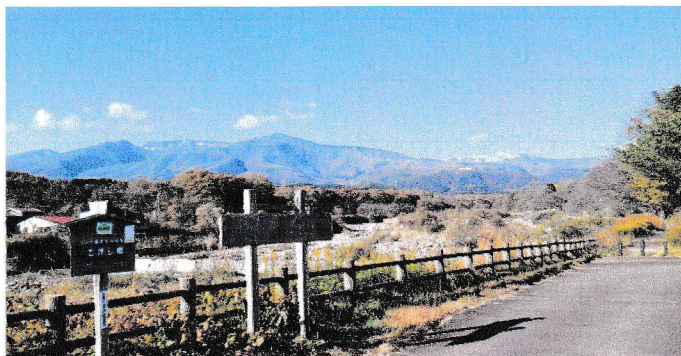
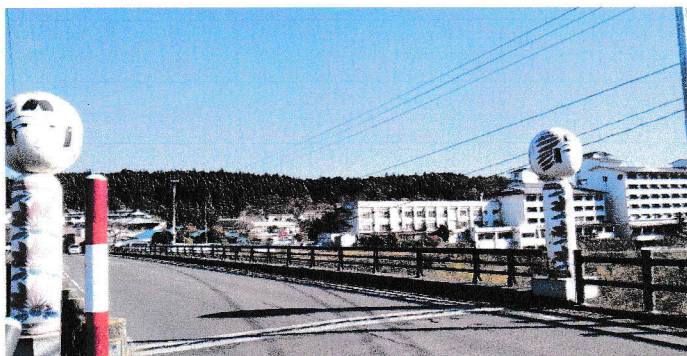


新湯治紀行（遠刈田温泉）

1982年10月4日が第1回目の放送で、お昼に「笑っていいとも!」と言う番組があった。その中で本日のゲストが友達を紹介し、翌日のゲストになる。また本日の放送日のゲストが友達を紹介し、次々と「友達の輪」が広がっていくというコーナーがある。そして、2014年3月31日終了し、約32年続いた長寿番組であった。



こけしは、江戸時代末期ごろに東北地方の温泉地で生まれ、温泉旅行のお土産として愛されてきた。名湯とこけしのふる里には、強い結び付きがあり、私は、今年の6月中旬に鳴子温泉郷、7月末に肘折温泉郷、9月下旬に土湯温泉と旅行をした。お土産の「鳴子こけし」→「肘折こけし」→「土湯こけし」と机に並び「こけしの輪」が広がってきた。『次に紹介する“こけしのふる里”は、遠刈田温泉です』



遠刈田温泉の開湯は、約400年前と云われ、江戸時代から賑わいを見せるようになる。昔から足腰の関節痛、神経痛、婦人病に効くと云われている。

遠刈田温泉の泉質は、「ナトリウム・カルシウム-硫酸塩・塩化物泉」であり、泉質別適応症は、きりきず・末梢循環障害・冷え性・皮膚乾燥症・うつ状態である。

また、伝統こけしの3大発祥地のひとつが「遠刈田こけし」である。

伝統こけしの3大発祥地には、それぞれにこけしの展示館がある。鳴子温泉には「日本こけし館」、土湯温泉には「原郷のこけし群 西田記念館」、そして遠刈田温泉には「みやぎ蔵王こけし館」がある。この旅の3日目にみやぎ蔵王こけし館を見学し、お土産にこけしを購入した。

社長兼従業員の一人で進めてきた鶴亀旅行株式会社の『こけしのふる里をめぐる温泉旅行』プランも充実してきました。「愛らしいこけしとの出会い」そして「みちのくの温泉旅行」きっと心も体も癒されると思います。

気軽にどうぞお声をかけてください。2泊3日の旅でしたが、友達の輪(和)の広がり長寿会社への成長に期待が膨らみ、私の机の上にこけしが一つ増えました。

